

## 年間第 33 主日 (ルカ 21:5-19)

苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む(3)



今週の福音は、「苦難があり、そこで忍耐を学ぶなら、希望が開ける」こう学ばせようとしているようです。イエスは話の結びとして、次のように仰います。「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」(21:19)。忍耐について学ぶなら、私たちの未来には希望が待っています。今週、忍耐と希望について学ぶことにいたしましょう。

今週の説教の内容は、2004年のものを参考にしています。2013年にも参考にしていますからブログを読んでもくだされば分かりますが、(3)と書かれています。以前のものを参考にしたすべての説教に、何回目と印をしておけば良かったと今気づきました。

弱音を吐くことは誰にでもあります、きっと皆さんは、私など及びもつかないような忍耐を、生活の中で経験しているに違いありません。夫婦で一つ屋根の下にいれば、いろんなことでどちらかが我慢していることがあるのだと思います。夫婦と言いましたが、それは親子の間でもそうでしょう。気持ちよく過ごせる日ばかりではないと思います。

それ程多くの場面で忍耐を強いられているのですが、私たちは果たして忍耐から何かを学んでいるのでしょうか。ある意味、いちばん多く積み上げてきている徳であるにもかかわらず、そこから学ぶことが少ないのではないのでしょうか。そこで今週は、忍耐が私たちキリスト信者をどこまでたどり着かせてくれるのか、確かめたいと思っています。

忍耐と言っても、経験から思い知らされているように、何も学べずに終わる忍耐もあり得ます。憎しみを心に抱いたまま、我慢し続けている。それも忍耐なのでしょうが、おそらくそのような忍耐は不毛なのだと思います。忍耐することで何かを勝ち取る。イエスに少しでも触れることができるように、要点を押さえてみましょう。

みことばが教えているのは、「忍耐する人は、命を勝ち取る」ということです。どんな命でしょうか。「中には殺される者もいる」(16節)。殺されてもなお失わない命、それは神が与えてくださる永遠の命です。だれからも取り上げられることのない神の命です。永遠の命を得るのであれば、それは私たちが神と出会っていることと何ら変わりません。忍耐によって神と触れ合うことになるのです。

忍耐のすばらしさを確かめましょう。まことの忍耐は、愛を現します。介護をしている人がいるとして、着替えを手伝うこと一つ取り上げても、しばしば忍耐を求められます。まことの忍耐を積む人は、お世話しているその人に、私の中の愛を現しているのです。あるいは食事の介助をしている時でも、まことの忍耐を積むことで目の前の相手に、またその相手を通して神に、私の愛を現すことになります。

忍耐が愛を現すことが分かれば、そこから次のことも考えるに違いありません。私はこれまで介護に携わってきたけれども、愛を現すチャンスに変えてこなかった。忍耐していたけれども、私は苦しい思いだけ

を積み上げてきた。今日、愛を現す忍耐があることを学びました。まことの忍耐は、人間を救うためにあらゆることを忍耐された神の愛に、参加するまたとない機会なのです。

次に、忍耐は私に与えられた生き方を完成させるものです。結婚生活に置かれている人、修道生活に召されている人、司祭に召された人、いろんな生き方に神は私たちを置いてくださっていますが、いずれの生き方（召命）についても、忍耐なくしてはそれぞれの道を全うすることは叶いません。キリストはそのことを身をもって示してくださいました。イエス・キリストは「一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ち、愛をもって互いに忍耐する」（エフェソ 4・2）この模範を残してくださいましたのです。こうして、召された生き方をまっとうしてイエスに倣いなさいと招いておられるのです。

忍耐せずに置かれた生き方を全うできるならどれほど楽でしょう。現実には、そんなに簡単なものではありません。どんな生き方に召されていても、たとえ他人からは暢気に暮らしているように見えても、完成するためには忍耐が必要なのです。忍耐する覚悟を持たずに逃げようとするれば、完成できずに召された生き方を終えることになるのです。

さらに、忍耐することで私たちは真の神の子らとなります。神は人間を愛し赦し救うためにあらゆる忍耐を通してこられたのですが、私たちがまことの忍耐を積むなら、そのまま神に似る者となります。忍耐する人は、心の柔和・謙遜なイエスの弟子となることができるのです。

これほどの高みに、忍耐は私たちを運んでくれるのです。私たちは数多くのことを忍耐してきました。場合によっては道理に合わないことすら耐え忍んできたのです。ですが、なかなかそのことが私を清め、キリストに似る者となる機会に結びついていませんでした。

今は違います。忍耐する時、私は一歩ずつ真の神の子、イエスの真の弟子に近づいているのです。苦難は忍耐を生み、忍耐する人はイエスによって永遠の命の希望を手に入れるのです。

最後に、一人の神父様を紹介したいと思います。長崎に原子爆弾が投下され、一瞬で市内は焼け野原になりました。東洋一と言われた浦上天主堂も失われました。苦難の中、一人の神父様が浦上教会主任司祭に抜擢されます。それが、フランシスコザビエル中田藤太郎神父様です。

神父様は二年間浦上の主任を務めました、その間に仮聖堂建設を成し遂げます。もちろん信徒の力が大きいですが、苦難の中で想像を絶する忍耐力をもって仮聖堂建設までこぎ着けました。たくさんの命が失われましたが、忍耐によって滅びることのない命を数多く勝ち取ったのです。長崎のカトリック信者の魂とも言える浦上教会聖堂を再興し、多くの人の希望を取り戻したのです。亡くなられた教皇フランシスコの通常聖年大勅書タイトル「希望は欺かない」そのことを証明したのです。

今年は通常聖年です。「神よ、あなたはわたしの希望」を心から体験する年です。その一助として、中田藤太郎神父様を偲んで出版された「道のさなか」この本をお勧めします。